

ご挨拶

審判委員長就任のご挨拶

前任の柳澤和也氏から引き継ぎ、4月より審判委員長に就任しました。

現在、兵庫では、9,686名（1級・女子1級：6名・2級：81名・3級：584名・4級：9015名）のS審判員と1189名（2級：8名・3級：114名・4級：1067）のF審判員の方にご協力を賜り、審判活動を推進していただいています。（資料：2011年度）

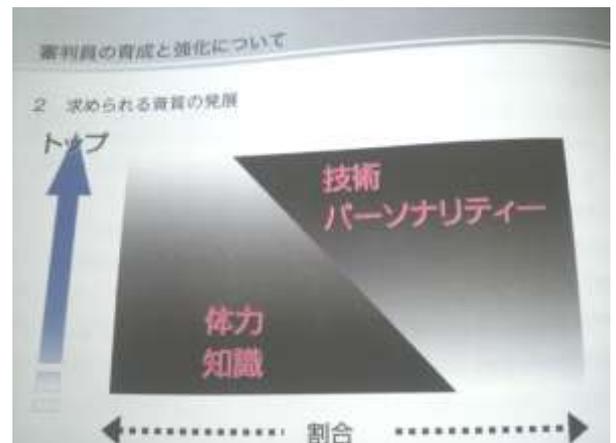
担当する試合やその年代、またその目的も様々かもしれませんが、チーム・選手に対して正しい競技規則のもと、すがすがしい試合をコントロールしていこうという思いは共通のものと思っています。

さて、競技規則の日本語版付録中に「審判員の目標と重点項目」が記載されています。重点項目は、「知識・経験」「技術」「フィジカル」「心理」「パーソナリティー」に分類され、それぞれに求められるものが明記されています。よりよい審判員となるためには、前者3項目はもちろんのことですが、後者の2つがポイントを占めるのではないかと考えます。試合中に起こるであろう事象に対しての気づき・選手の心理把握そして審判員自身の冷静な状況判断、これらは日々の生活の中で培われるパーソナリティーの形成に大きく影響しているものと考えます。

審判員としての自覚と責任を胸に日々成長し、選手・指導者・チームと共にグッドゲームを数多く創りだせるよう皆様のご協力をお願いいたします。

また、県審判委員会では、総務部・強化育成部・インストラクター部・トレーニングセンター部・競技部・フットサル部・都市協会部会の組織のもと各部そして都市協会審判委員会と連携をとり、審判員の皆様に情報発信、試合の割当・指導・強化をはかっています。

気づきの点は何なりとお申し出頂き、兵庫のサッカー界をさらに充実・発展させていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。



審判委員長退任のご挨拶と大切にしたいこと

兵庫県審判委員会で役員の改選に伴い、本年度から大西弘幸さんが審判委員長として兵庫県を取り纏め、推進していくことになりました。

4期8年にわたり色々とお世話になりありがとうございました。

審判委員会の各部の活動も新たな人材への引継ぎが徐々に進みました。審判委員長をお引き受けした当初の目標であった色々な考えの人の意見を多く取り入れて、同じ方向を向きやすくする体制の基礎は固まったと感じています。

今後は大西委員長の下、十分に意見交換が出来る活動が展開されます。又、情報の速さ、日本協会の活動の移り変わりの速さに対応できる15年、20年先を考えた新たな考え、工夫を新しい力で構築するステージだと考えます。報・連・相がわるい、対応のスピードが遅い等ご迷惑をおかけした点が多くあったかと思ひます、この場をおかりしてお詫びを申し上げます。

今回ご挨拶できる機会に、日ごろ感じている審判をするうえで大切にしたいことを少しお話させていただこうと思ひます。3つのポイントが重要だと思ひています。

① ポジショニング

判定のばらつきはレフェリーのポジションが悪かったことが原因です。

ポジションが悪い原因がどこにあるのかを考えるべきでしょう。又、何を監視するためにという目的があってはじめて決まるものだと思います。

② 判定の的確さ

事象をシンプルに捉えて素直に対処する必要性を感じます。

見た現象を直感的に判断する感受性のアップと先入観がなく、見たものを見たままに素直に判断するべきでしょう。

③ ゲームコントロール

はっきりと自分の意志を相手に受け入れやすく伝える。伝わらないことの原因の自覚が必要になってきます。判断をした後に選手の異議や周囲の反応に迷う、不安な態度姿勢を示すことが判定に自信がないと見られがちです。

同時に審判員として権限や権威を出しすぎないような注意とバランスが重要なポイントをしめると感じています。

これらのことが直ぐに自分のものになることではなく、少しずつの積み重ねが選手の皆さんに受け入れやすい判断、人間性につながっていくと信じています。これらのことは自分自身も大切にしなければいけない点です。これからもサッカーに携わっていけることに喜びを感じながら、いつでもバックアップできるポジションで素直に現役のときの副審と同じように新審判委員長の意思、タイミングがわかるサポート役になれるように活動を進めたいと思ひます。今後とも、宜しくお願いします。